

Ⅳ-184

金沢市における時差出勤制度の社会実験実施における一考察

金沢大学工学部 正会員 高山純一* 金沢市交通対策課 木村 実**
金沢大学大学院 学生員 ○谷 英賢* 金沢市交通対策課 福浦基男**

1. はじめに

現在の金沢市の交通状況は、郊外に点在する住宅地から都心部へ向かう自動車が発生しているため、慢性的な交通渋滞が起きている。これにより所要時間の増大、渋滞によるイライラの発生などにより肉体的にも精神的にもドライバーに疲労を感じさせる状況にある。

快適な通勤環境を提供する対策として、金沢市では道路のソフト的対策の一つとして時差出勤の導入を平成6年度より検討をしてきている。具体的には、時差出勤のメリット等を表したパンフレットの配布(PR)などを行うことによって、時差出勤に関心の高い企業に対して情報提供を行い、官民協同でTDM施策を推進することを検討している。

今回、問屋団地を対象に3月11日(火)~3月14日(金)の4日間、時差出勤の試行実験を行った。本研究では、その際に行われた事前調査ならびに事後調査について報告する。

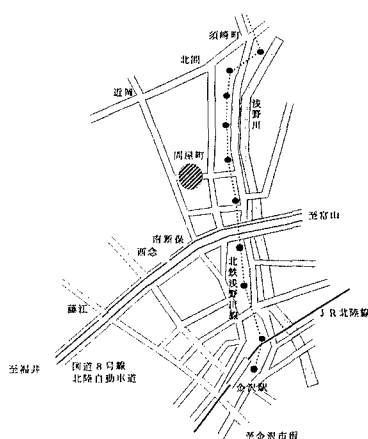


図-1 問屋団地周辺地図

2. 時差出勤の試行実験に関する概要

問屋団地に所在する民間企業(129社、3,148人)に対して時差出勤の試行への協力を呼びかけたところ、103

社から回答があり、89社(1日当たり1,443人)が試行実験の参加に協力してくれることになった。これは、問屋団地内企業の約69%(従業員ベースで46%)の規模である。

これにより、現在の通勤ピークである8:30始業の従業員が問屋団地全体で1,271人から667人に減少し、その結果ピーク率が40%から21%程度に低下するものと予想される。つまり、これにより通勤時の交通渋滞が大きく緩和するものと期待される。

3. アンケート調査の概要

3-1 従業員に対する時差出勤の意向調査

調査目的：従業員に対して、社員の通勤状況及び時差出勤に対するニーズをアンケート調査により把握する。
配布期間：平成8年8月下旬郵送により配布、9月下旬回収。

調査対象：問屋団地内企業の社員(129社、計3,148人)
回収数：118社、2,378人
回収率：75.5% (企業回収率91.5%)

3-2 経営者に対する意向調査

調査目的：企業経営者の時差出勤に対する意向をアンケート調査により把握する。

配布期間：平成8年9月下旬配布、10月上旬回収。
調査対象：問屋団地内の企業経営者(129社)
回収数：90社
回収率：69.8%

3-3 従業員に対する時差出勤試行実験の事後調査

調査目的：時差出勤制度を実際に試行して、その効果や問題点についての把握を行い、さらに総合評価により今後の本格実施へ向けての検討課題を明らかにする。
配布期間：平成9年3月上旬配布、3月下旬回収予定。
調査対象：問屋団地内企業の社員(2,602名)。

キーワード：交通需要管理 時差出勤 官民協調

* 〒920 金沢市小立野 2-40-20 TEL0762-34-4650 FAX0762-34-4644

** 〒920 金沢市広坂 1-1-1 TEL0762-20-2038

調査目的：時差出勤制度を実際に試行して、労務管理上の問題や業務上の問題についての課題を把握し、さらに総合評価により今後の本格実施へ向けての課題を明らかにする。

企業経営者に対する意向調査はメリット、デメリットを複数回答で選択していただいた。メリットとして最も多かった回答は「通勤ラッシュの回避」で、デメリットとしては「会議への影響」が挙げられている。また時差出勤への意向では、「良い制度であるが難しい」(58%)「良い制度でない」(21%)という否定的な回答が多く、合わせて約79%を占めている。

4-1 従業員に対する時差出勤意向調査の結果

Category	件数 (Number of cases)
通勤	72
サーチ時間	14
採用面	9
選考	17
業務効	14
その他	3

図一4 経営者からみた時差出勤のメリット

理由	件数
取引先の無	35
サービスの低	20
会議への影	48
就業管の典	41
業務効の減	30
社体内の制見直	35
その他	5

図-5 経営者からみた時差出勤のデメリット

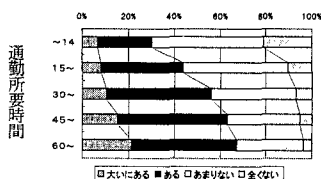


図-2 通勤所要時間別の時差出勤制度に対する関心度

また、希望の始業時刻について質問を行ったところ、下の図-3 のような結果となった。現在、交通渋滞のピークである 8:30、9:00 始業の希望が減り、比較的交通量が少ないとみられる時間への希望が多くなった。これは、時差出勤制度に対する期待が比較的大きいことを示しているものと考えられる。

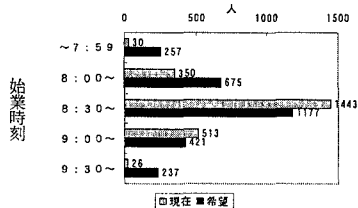


図-3 始業時刻に対する希望調査の結果

5. まとめ

今回の事前調査を通して従業員側の評価はまずまず高かったのに対し、経営者側の評価は多少低い結果となった。これは時差出勤制度が経営者にとって多少のリスクになるのではという思いからくるものと予想される。なお、事後調査の結果については講演当日に発表したい。

〔参考文献〕

- 1)金沢市都市政策部交通対策課；「時差出勤等導入調査」研究会資料、平成8年3月
- 2)金沢市都市政策部交通対策課；「金沢市総合交通計画実施推進協議会」説明資料、平成8年8月
- 3) (株)計画情報研究所；「時差出勤事前調査」、平成8年11月
- 4) 山口哲央、高山純一、木村実、坂井祐一；「金沢市における時差出勤導入の試行実験」、交通工学研究発表会論文報告集、No.16、PP.221～224、平成8年11月
- 5) 高山純一、谷英賢、木村実、坂井祐一、松本佳子；「金沢市における時差出勤の社会実験導入に関する考察」、土木学会中部支会研究発表会講演概要集、PP.539～540、平成9年3月